



2024年8月20日

日本鉄道労働組合連合会

連 合 2024 平 和 行 動 i n 広 島

語り継ぐ戦争の実相と運動の継承で核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう

連合は、8月5日から6日にかけて「2024平和行動in広島」を広島市内で開催し、JR連合から住吉一家労働政策局長のほか、JR西労組、JR九州労組、貨物鉄産労の仲間約30名が参加。「連合2024平和ヒロシマ集会」には、全国から1,780名の仲間が結集した。

連合広島の青年委員会や女性委員会のガイド（JR西労組広島地本青年女性委員会のメンバーもガイドとして参画）のもと実施されたピースウォークでは、平和記念公園内の原爆ドームや慰霊碑などを巡り被爆時の状況や戦争の実相に触れ、核兵器がもたらした悲劇や戦争の惨禍を学習した。



JR西労組広島地本青年女性委員会のメンバーも案内するピースウォーク

上野学園ホールで開催された「連合2024平和ヒロシマ集会」では、連合の芳野友子会長、



連合2024平和ヒロシマ集会

連合広島の大会野真人会長らがあいさつに立ち、「平和を願う気持ちは国民の共通認識であるが、行動に移せる者は多くない。今こそ『核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現』に向けて力を結集しよう！」と力強く発信した。また、中国新聞社特別論説委員の宮崎智三氏から「被爆80年に向けて被爆地広島の課題と役割」と題した講演を受けたほか、広島県原爆被害者団体協議会理事長の箕牧智之氏から被爆体験証言を拝聴し、悲惨な戦争の実相に対して更なる理解を深めた。

その後、高校生平和大使からの活動報告とメッセージを受け、連合広島の大会野会長から次の平和行動の開催地である連合長崎の高藤義弘会長にピースフラッグがリレーされた。最後に、「核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現をめざして、平和を願うすべての仲間の力を結集し、粘り強く運動を展開していく」としたヒロシマからの平和アピールを全体で確認した。

平和記念資料館の視察では、被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真や絵などの展示資料に触れるとともに、核兵器の危険性や被爆前後の歴史資料、被爆者証言ビデオの視聴などを通じて、世界平和の実現にむけた思いを再確認した。

JR連合は、引き続き連合の平和行動に連帯・参画し、世界平和の実現に向けて取り組んでいく。

